

狹山ヶ丘分館 図書館だより

お知らせコーナー



新着資料の紹介

『ぼくがスカートをはく日』

エイミ・ポロンスキーノ著 西田佳子訳 他

学研プラス 2018年 《YF/ポ》

学校で演劇が行われる。主人公のグレイソンは【女神】役のオーディションを受けることにした。先生やクラスメイトは必ずしもグレイソンを受け入れてはくれない、そんなグレイソンの唯一の理解者である両親は他界。それでもグレイソンは自分らしく生きていくことを選択する……。読み終わった後、深く考えさせられる一冊です。ぜひ読んでみてください。

ティーンズ版
第3号
令和元年12月
(不定期発行)

『読書の木』について
狹山ヶ丘中学校と三ヶ島中学校の図書委員の皆さんに、POPを書いてくれました。色とりどりのPOPをマスキングテープの木に貼ると、まるで葉っぱのように見えませんか?利用の方々が足を止めてPOPを見ているのが印象的でした。

○お知らせコーナー

狭山ヶ丘分館からのお知らせのコーナーです。

○新着資料の紹介

図書館で新しく購入した資料など、資料紹介のコーナーです。

○特集コーナー

①狭山ヶ丘分館スタッフのおススメ本を紹介します。

②秋草学園短期大学のおねえさんに聞きました！ティーンズにおすすめの本。

○投稿「わたくしたちのオススメ本」

ティーンズコーナーのポストに利用者から投稿された『わたくしたちのオススメ本』をご紹介します。

○テーマ展示本

今月のテーマ展示本コーナーから本をご紹介します。

CONTENTS(目次)



特集①：狭山ヶ丘分館スタッフの 「私がティーンズ時代に読んだ本」



『オード・ヘンリー傑作選』

オード・ヘンリー/著

大津栄一郎/訳 岩波書店

《B/933.71》

学生時代すすめられて読みました。大人になっても自信を持って好きと言えるのが「賢者の贈りもの」と「最後の一葉」です。

Y. N

『変身』

フランツ・カ夫カ/著

中井正文/訳 角川書店

《YF/カ》

主人公はある日、虫に変身してしまいます。“虫に変身する”とは何を表わしているのか。誰の立場に立つかによっても様々な見方が出来ると思います。

K. O

『陰陽師』

夢枕 猛/著 文藝春秋

《913.6/ユ》

現代に失われつつある不思議な世界観と主人公である安倍晴明と友人の源博雅のかけあいが好きでした。

T. M



特集②：秋草学園短期大学のおねえさんにお聞きました！ティーンズにオススメの本

11月9日（土）第20回所沢図書館まつりにて「秋草学園のおねえさんといっしょにおはなし会」を開催しました。参加してくれた学生さんたちにティーンズにおすすめの本をきいてみました。図書館にある本なので、ぜひ読んでみてください。

『底辺女子高生』 豊島ミホ/著 幻冬舎 2006年《B/914.6/ト》

何気なく、みっともない日々が青春などと気付ける作品です。女子高生のおちこぼれ話が自虐的に書かれていてとても面白い一冊です。
(by イースター)

『そして生活はつづく』 星野源/著 文藝春秋 2013年《B/914.6/木》

歌手、俳優、文筆家という多様な才能をもつ星野源さんのいわゆる「下積み時代」の生活感、親近感あふれるエッセイです。
(by くるみ)

『西の魔女が死んだ』 梨木香歩/著 新潮社 2001年《YF/ナ》

自分らしく生きるというのはどういうことか、家族の大切さと一緒に考えなおすことが出来る本です。自然の中で成長する主人公にも注目して読んでみてください。
(by みち)

『大きな音が聞こえるか』 坂木司/著 角川書店 2012年《913.6/サ》

分厚さに「おっ…」となります。読んでよかったです！爽やかなようでいて、現実的なところもあります。「夢」って、「大人」って何だろう…主人公「泳」の成長物語。あなたも終わらない波に乗ってみませんか？
(by アリスの国のアヤツジスト)

『流星の絆』 東野圭吾/著 講談社 2008年《913.6/ヒ》

何者かに両親を殺されてしまった三兄妹は流れ星にかたきうちを誓う。3人で完璧に仕掛けたはずの復讐計画。最大の誤算は妹の恋心だった。ドラマ化されたこともある小説です。兄妹の絆やハラハラドキドキ、感動の展開に目が離せません。
(by さき)

『学ばない探偵たちの学園』 東川篤哉/著 光文社 2009年《B/913.6/ヒ》

文学部に入るつもりが探偵部に入ってしまった転校生、赤坂が学園で起こる様々な事件にまきこまれていく推理小説です。
(by すずらん)

『ナミヤ雑貨店の奇跡』 東野圭吾/著 角川書店 2012年《913.6/ヒ》

ナミヤ雑貨店に届く悩み相談の手紙。時空を超え、色々な人の人生が絡み、最後には心が温まるストーリーです。山田涼介さん主演で映画化もされています。
(by ぴーたん)



わたしたちのオススメ本



ティーンズコーナー『わたしたちのオススメ本』ポストに投稿されたものからご紹介します。

『鏡』（はじめての文学「村上春樹」に収録）

村上春樹/著 文藝春秋 2006年《Y/F/M》

特に中高生に読んでほしい！あまり長くないのでとても読みやすい。少し考えさせられる本です。教科書にのっていて、とても面白いと思いました。風の音を「うん」や「いや」で表しているところ、色々なところが独特的な表現で面白いです。
by 抑ちゃんマン

『タイムリープ』

高畠京太郎/著 メディアワークス 1996年《Y/F/タ》

ある少女が昨日の記憶を喪失していることに気づく。少女の日記には「あなたは今、混乱している。若松君に相談なさい」と書かれていた。若松君と時間を取り戻していく。最初は難しい本と思っていたけど、面白かった。
by リア充できない人

12月のテーマ展示「芸を磨く」から

『風のヒルクライム』

加部鈴子/著 岩崎書店 YF/力

涼太は十三歳の誕生日に、父の趣味のロードバイクを贈られたことから、勢いでレースに出場する事に。不器用な父と息子やママチャリに乗る学生服の高校生、父の元患者・・・。みんなそれぞれの思いを胸に、ゴールを目指します。ティーンズのみなさんにはぜひ読んでいただきたい1冊です！

編集後記：

オススメ本の投稿、これからもお待ちしています！

